スクラム
～立志・挑戦・感動～

浮羽中学校学校通信

第11号（６月１９日発行）
文責　校長　髙倉　満

習慣は意欲を育てる！みんなが大切にすべきものは？
イチロー選手の凡事徹底に学ぼう

みんなもよく知っているイチロー選手。日米通算安打数で世界記録を樹立したことは世界中を興奮させました。惜しまれながら引退をしました。今までの活躍の裏には**「凡事徹底」**（あたりまえの事を毎日やり続ける）自分に負けない強い心がありました。奥村幸治さん（宝塚ボーイズ監督）の話より。

継続する力・・・一日なら誰でもできることを、徹底して毎日やり続ける。ある時、イチロー選手にこんな質問をした ことがあった。「今までにこれだけはやったな、といえる練習はある？」彼の答えはこうだった。

「僕は高校生活の三年間、一日たった１０分ですが、寝る前に必ず素振りをしました。その１０分の素振りを一年３６５日、３年間続けました。これが誰よりもやった練習です。」プロに入り、２軍でプレーしていたイチロー選手は、キャンプ期間中、夕方に練習を終えると早々に眠りに就いた。そして皆が寝静まる深夜にこっそりと部屋を出ると、室内練習場で数時間の特打をするのを日課としていた。私は現在、少年野球チームの監督を務めているが、例えば野球の上手な子にアドバイスをすると何をやってもすぐできるようになる。下手な子はなかなか思うようにいかない。ところが、できるようになったうまい子が、いつの間にかその練習をやめてしまうのに対し、下手の子は粘り強くそれを続け、いつかはできるようになる。そして継続をすることの大切さを知っている彼らは、できるようになった後もなお練習を続けるため、結局は前者よりも力をつけることが多い。その点、イチロー選手は卓越したセンスを持ちながらも、野球の下手の子と同じようなメンタリティを持ち、ひたすら継続を重ねている。継続する力、つまりルーティン（毎日やること）を大切にしている。これこそが彼の最大の力になっている源だろう。

《イチロー選手》の言葉

◇頑張れば何とか手が届くところに目標を設定する。
目標は高くし過ぎると絶対ダメなんです。必死に頑張っても、その目標に届かなければ、あきらめたり、挫折感を味わうでしょう。それは目標設定のミスです。頑張れば何とか手が届くところに目標を設定すれば、ずっとあきらめないでいられる。そういう設定の仕方が一番大事だと僕は思います。

自分で目標を持ち、それに向けて継続を怠らなければ、必ず次の段階へと自分を押し上げていくことができる。浮羽中も個人の目標はもちろん、学級目標や生徒会スローガン、学校全体がチームとして同じ目標に向かって協力し合い、全力で努力を継続していけば、さらに大きく成長していくことができます。こうした努力は、人生を生き抜く力にも必ずつながっていると考えます。イチロー選手のように自分にとっての明確な目標を持ち、クリアすべき課題を時間に関係なくやり続ける姿勢に私たちが学ぶべき事は多いと思います。能力の差は小さい、努力の差は大きい、**継続の差はさらに大きい！**
みんなが必ず可能性を持っています。その可能性を引き出すのも、あなたしだいですよ。

～2020年浮羽中　生徒会スローガン決まる!～
「足跡」～一人一人の進む道～

○浮羽中の生徒一人一人が中学校生活の中で、どんな足跡を残してくれるでしょうか
遠回りしても、無駄な足跡はありません。その無駄な時間が財産です。
きっとたくさんの足跡から何かを発見することがあります。ただ小さな歩みでもいい、足跡を止めないで学校生活を頑張ってください。卒業式で自分の三年間をふり返り、たくさんの足跡に驚いた時に、頑張った自分を褒めてください。
ただ忘れて欲しくないのは、その足跡の中に重なり合う家族の足跡があるはずです一緒に悩み、応援してくれた家族の温かい姿に感謝できる人になってください。

□今年の生徒総会は新型コロナウイルス感染症対策の関係で初めて放送での生徒総会でした。生徒会担当の島先生を中心に、生徒会執行部の生徒たちが知恵を出し合い、工夫したものになりました。先生方をはじめ、生徒の皆さんが協力してくれたおかげで、無事終えることができました。本当にお疲れさまでした。